

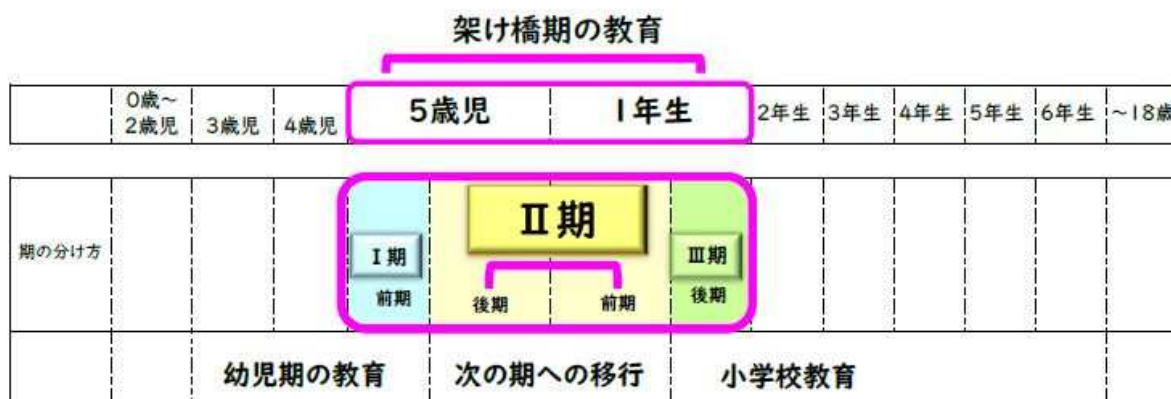
第3章

港区版

架け橋期のカリキュラム

1 架け橋期の構造

本改訂では、これまでの「小学校入学前教育カリキュラム」における基本的な考え方を引き継ぎつつ、これまでであった5歳児のいわゆるアプローチカリキュラムと小学校1年生1学期のカリキュラムを、架け橋期の2年間に広げることによって、より一層、学びのつながりを意識できるように、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期の各期に分けて、子どもの発達や学びのプロセスについて考えてきました。



Ⅰ期（5歳児前期）

幼児期の教育

Ⅱ期（5歳児後期から1年生前期） 次の期への移行の教育が行われている

Ⅲ期（1年生後期）

小学校の教育

2 共通の視点

改訂したカリキュラムでは、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期の各期に、共通の視点となる①から⑤の各項目について実践例から整理し、これまでの「小学校入学前教育カリキュラム」にある「身に付けさせたい内容」「家庭との連携」「園での指導例」なども併せて見直し、各項目を充実させています。

① 期待する子ども像

期待する子どもは、資質・能力が一体的に育まれている姿を表しました。

Ⅰ期 5歳児4月～9月	Ⅱ期 5歳児10月～1年生9月	Ⅲ期 1年生10月～3月
- 自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせる - 友達と互いの思いや考えなどを共有して、共通の目的の実現に向けて考えたり、工夫したりする	- みんなと楽しみながら関わり、目的に向けて、自分で考えたり、工夫したり、協力したりしながら、あきらめずにやり遂げる - 様々な活動（授業）を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、必要感をもって取り組み、自信をもって行動する	- 経験で得たことを生かし、主体的に学習に取り組む - 学級の一員としてみんなでやることの楽しさを感じ、見通しをもって粘り強く取り組む - 自己発揮や自己調整する中で、自分の世界を広げていく

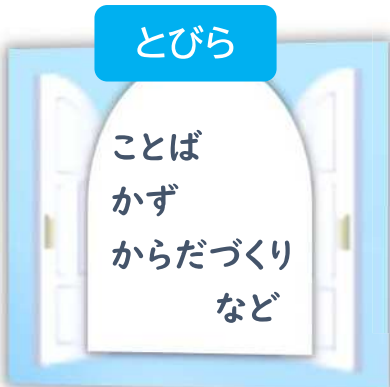
② 発達の流れ

2年間の中での遊びや学びに向かい方について捉えました。

I 期 5歳児4月～9月	II 期 5歳児10月～1年生9月	III 期 1年生10月～3月
目的をもって遊びを楽しむ	目的を共有し 自覚的に学んでいく	前の経験を生かして より一層、自覚的に学習する

③ 園での体験や経験と各教科等の学習のつながり

I 期からII期、III期へと移行していく中で、特にII期以降では、幼児期の体験や経験を生かしてその体験や経験が継続して学習が始まっていきます。その後も、意欲を継続できるようにしながら、目的を実現したり友達と協同する楽しさや充実感を味わったりできるようにしていきます。

I 期 5歳児4月～9月	II 期 5歳児10月～1年生9月	III 期 1年生10月～3月
幼児期の体験・経験⇒	幼児期の体験・経験を生かし、継続した学習が始まる⇒	
・「やりたい」「やってみたい」意欲 ・試行錯誤しながら目的を実現 ・友達と協同する楽しさや充実感		
	・「やりたい」意欲の継続 ・ありのままの自分を発揮し、自分で考えて、目的を実現 ・友達と協同する楽しさや充実感	

④ 指導上の配慮点 （別紙 各期に記載）

保育士・幼稚園教員・小学校教員の主な「関わり方」や配慮について記載しました。

⑤ 環境の構成 （別紙 各期に記載）

幼児教育で実践している「環境を通して行う教育」の考え方を、小学校教育においても、ICT活用による環境を含めて記載しました。

なお、共通の視点の①から⑤までのそれぞれの内容を表にまとめていますが、より詳細な取組については、各園・各小学校の実情に応じて、よりよい実践につなげていくことが大切です。

3 小学校教育の学習の始期

「港区版 架け橋期のカリキュラム」を、各園・各小学校で実効性のある取組にするため、架け橋期2年間において、「学びのつながり」の理解を深めることが重要であることを述べてきました。

その「学びのつながり」を探るため、保育士・幼稚園教員、小学校教員は、どのように子どもと関わり、どのような言葉を掛けているのか、そして、その結果、どのような姿を見せているのか、生活における言語に着目し、実際に、港区で使用されている教科書の内容を相互に理解して、「学びのつながり」を検証しました。

例えば、国語（ことば）では「話すこと・聞くこと・読むこと・書くこと」、算数では「数」、「体育」では「体づくり運動」を主な視点として、子どもの言葉を引き出す関わりや自分で考えることを促す言葉掛けについて、実践の中から出しました。すると、Ⅱ期には、小学校教育の学習が始まる入り口のようなものと捉え、その入り口のようなもの、つまり「小学校教育の学習の入り口（始期）」を、「とびら」としました。

Ⅱ期は、行きつ戻りつしながら小学校の「学び方」を学ぶ重要な期間であると捉えました。

4 港区版 架け橋期のカリキュラム

次頁以降、カリキュラム（モデル案）を掲載します。

- Ⅰ期（5歳児4月から5歳児9月まで）
- Ⅱ期（5歳児10月から1年生8月まで）
- Ⅲ期（1年生9月から1年生3月まで）

カリキュラム（モデル案）を検討する際に、子どもの日常生活をとおした言語に着目して接続を考えました。

国語科では、「話すこと・聞くこと、読むこと・書くこと」に、算数科では「数」に、体育科では、「からだづくり」に視点を当てて、生活の中での言葉掛けをあらいだし、学びのつながりを検討しました。

小学校教育の学習の入り口（始期）には、どのような言葉かけをするのかに注目してみると、幼児期の経験を生かした言葉掛けを意識していることが分かりました。さらに、小学校教育の学習の入り口での言葉掛けから小学校教育の学習の単元を見通してみると、幼児教育では、その単元につながる直接的・具体的な体験や経験がとても重要であることがわかりました。

学びのつながりを意識した言葉掛けの工夫例をあげていますので、参考にしてください。

- 生活の中での「話すこと・聞くこと、読むこと・書くこと」に視点を当てて
- 生活の中での「数」に視点を当てて
- 生活の中での「体づくり」に視点を当てて